

3. 静岡建築茶会 2017

～Shizuoka Architectural Tea Break 2017

この講座の内容は別途冊子にまとめられています。

下記 URL で電子版の冊子の内容が確認できます。

<http://www.sist.ac.jp/architecture/teaparty/report2017>



講座の概要

- 1 **大学連携講座の名称:**防災建築街区と中心市街地の持続可能性 第1回@浜松
- 2 **主担当大学及び所属:**静岡理工科大学 理工学部 建築学科 脇坂圭一
- 3 **連携先大学及び所属:**静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 天内大樹
・講師、常葉大学 造形学部 造形学科 土屋 和男・教授
- 4 **開催日時:**10月14日(土) 13時30分~17時00分
- 5 **開催場所:**浜松・鴨江アートセンター
- 6 **参加者数:** 32人(一般 24人、大学生 8人)
- 7 **事業の概要と成果(講師、要旨を含む):**前後半に分け、前半は脇坂より「防災建築街区とは何か」として概説を行った後、登壇者による講演、後半はモデレーターを含めたディスカッションを行った。
講演者および題目は、海道清信氏(名城大学都市情報学部都市情報学科 教授)|防災街区の再発見、鈴木一郎太氏((株)大と小とレフ 取締役)|建物の活用と、生活者の活動(地域プロジェクト)、佐々木豊氏(浜松市役所 都市整備部 市街地整備課)|浜松市の取り組みについて、であった。モデレーターは、脇坂圭一(静岡理工科大学)、天内大樹(静岡文化芸術大学)、土屋和男(常葉大学)が務めた。
脇坂からは、防災建築街区造成法と都市建築関連法の関係、静岡県内に残る防災建築街区の立地状況、数量、熱海、富士、清水、静岡、浜松の防災建築街区の現状、沼津、磐田ほかの防火建築帯の現状、タワー型再開発による課題、について発表した。
海道教授からは、愛知・犬山、富山・氷見の防災建築街区での取り組み、大火と防災建築街区の歴史的関係、現状と課題、可能性について、鈴木一郎太氏からは、「地域プロジェクト」をキーワードに、防災ビルの建て替え後の建物における事業とまちとの関わり、「生活長者」としての社会との関わりについて、佐々木氏からは、浜松市内の再開発の変遷、中心部の歩行者の減少、老朽化の進行、アンケートによるオーナーの意向、空き屋数の増加、都市再生促進条例による法的支援とリノベーションまちづくりによる官民分担、個々の建物に応じた多様な整備手法の必要性について、講演を頂いた。
ディスカッションでは、リノベーションの採算性として、初期投資を抑えつつ、価値向上による行政としての固定資産税の増収について、短期的な儲けだけではなく地域プロジェクトとして長期的に地域に関わることの意味について、産業支援だけではなく起業家支援の視点を持ったまちづくり行政の必要性について、議論した。また、活発な質疑が上がり、街なかに人が集まる仕掛けをつくるオーナーの重要性、文化財としての防災建築街区の可能性、そのオーダーとしての50年、100年という時間、富士市における富士山への景観の意味とまちの骨格の関係、鳥取市における市民のスタンス、などに話が展開し、中心市街地の活性化について、掘り下げられていった。

※詳細資料：広報チラシ兼当日プログラム、講座写真データ、記録集

講座写真データ 第1回@浜松



主旨説明をする天内大樹



防災ビルの説明をする脇坂圭一



講演する海道教授



講演する鈴木一朗太氏



講演する佐々木豊氏



ディスカッション風景



ディスカッション風景

静岡建築茶会 2017

Hamamatsu

縮退する社会で持続可能な都市とは？

「静岡建築茶会 2016」は「建築家」に焦点を当てましたが、「静岡建築茶会 2017」は「都市」に焦点を当てます。

県内各市における現代的な課題として一部を挙げるならば、①脆弱な公共交通と都市の郊外化+都心部の空洞化と商店街のシャッター街化、②限界集落の消滅可能性と環境の保全、③東海道沿いゆへの開発で消失した多くの歴史遺産、④全国的に高水準の空き屋問題、⑤市街地に戦後多く建設された建築物の老朽化などがあります。

複雑に絡み合ったこれらの問題に、簡単に処方箋は見いだせませんが、個々の専門領域に閉じこもらず、産官学の関係者と一般の来場者も含めたラウンドテーブルを開催することで、問題のメカニズムを共有し、方法論を見いだしたいと思えます。

静岡県は東西に広い地理的要因、藩政期由来の歴史的要因などから、問題意識を県民として共有するのが難しいとも言われます。東海道沿いだから降ってきたヒト・カネ・モノにはもう頼れないかもしれません。

今回トピックに据えたのは「防災建築街区」、昭和30年代、延焼防止を目的に全国の市街地に建設された鉄筋コンクリート造の建物です。竣工から50年経ち、商業空間の上部に集合住宅やホテルを積層させた「下駄履き」に再開発するか、中低層建物を活かして現代版の職住近接の街並みへアップデートするか——皆さんとともに「自分ごと」として考えていきます。

10/14 / SAT 13:30-

LECTURER 鈴木一郎太 (株)大と小とレフ取締役 / 佐々木豊 (浜松市役所 都市整備部) / 海道清信 (名城大学都市情報学部都市情報学科 教授)

MODERATOR 脇坂圭一 / 天内大樹 / 土屋和男

VENUE 浜松市 鴨江アートセンター 3階 301室



浜松市中区鴨江町1



タイムテーブル

13:30 挨拶・主旨説明	14:55 鈴木一郎太さん講演
13:35 県内の防災建築街区紹介	15:20 お茶会
13:50 海道清信さん講演	15:40 ディスカッション+Q&A
14:30 佐々木豊さん講演	16:30 終了、懇親会へ

参加お申し込み・お問い合わせ

各回定員
50名

定員は各回50名(先着順・無料)となっております。3日前までに下記メールアドレスへお申し込みください。その際、お名前・ご住所・ご所属・人数・懇親会(実費)への参加の有無をお知らせください。

teabreak.shizuoka@gmail.com

LECTURER

鈴木 一郎太

(株)大と小とレフ 取締役 / 浜松市生まれ。イギリスでアーティスト活動後、NPO 法人クリエイティブサポートレッツにて、文化事業を担当。2013年にハードとソフトを横断して扱う会社を建築家の大東翼とともに設立。コミュニティスペース企画運営、地域プロジェクトの研究、展示デザイン、演劇作品制作、文化事業企画など。2016年から静岡県文化プログラムコーディネーター。



LECTURER

佐々木 豊

浜松市役所 都市整備部 / 栃木県出身。1993年に地域振興整備公団(現・UR都市再生機構)に入団、2012年に浜松市役所に転職。公団ではきらりタウン浜北を始めニュータウン事業を中心に担当。市役所では都市整備部市街地整備課再開発グループに配属され、中心市街地の建築物等の管理及び活用に関する条例(浜松市都市再生促進条例)を策定、再開発事業やリノベーション事業を担当。



LECTURER

海道 清信

名城大学都市情報学部都市情報学科 教授 / 金沢市生まれ。京都大学大学院工学研究科建築学専攻終了後、地域振興整備公団。工学博士、一級建築士。1995年より名城大学助教授、2002年より現職。都市計画(都市デザイン、都市再生)。持続可能な都市形態、人口減少時代の都市や地域のあり方、住民参画のまちづくりなどを調査研究。



懇親会：黒板とキッチン

17:00-

浜松市中区田町 万年橋パークビル



MODERATOR / ORGANIZER



脇坂圭一 1971年北海道生まれ。東北大学工学部建築学科卒業。建築設計事務所勤務。オース建築大学留学(デンマーク政府奨学金)。JDS architects. 東北大学大学院博士課程修了。脇坂圭一アーキテクト設立(ヒュッグ・デザイン・ラボに改組)。2011-16年名古屋大学施設計画推進室准教授。2016年静岡理科大学建築学科設置準備室教授。



天内大樹 1980年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。同大学大学院人文社会系研究科博士課程退学。博士(文学)。美学芸術学 / 建築思想史。2008年日本学術振興会特別研究員、2011年東京大学教務補佐員、2012年東京理科大学PD研究員、2014年静岡文化芸術大学デザイン学部空間造形学科(現・デザイン学科)講師。



土屋和男 1968年東京生まれ。工学院大学建築学科卒業。芝浦工業大学大学院建設工学専攻、同地域環境システム専攻修了。博士(学術)。一級建築士。2002年より常葉学園大学造形学部講師。准教授。現在、常葉大学造形学部教授。専門は近代日本建築史。

PROJECT MEMBERS

杉山雅教(静岡文化芸術大学 デザイン学科3年) / 平井彰希(静岡文化芸術大学 デザイン学科3年) / 山下由莉恵(静岡文化芸術大学 デザイン学科3年) / 安江朱音(静岡文化芸術大学 デザイン学科2年)

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム 平成29年度 大学連携講座

[主催]静岡理科大学/静岡文化芸術大学(連携)/常葉大学(連携)/静岡建築茶会
[後援]浜松市/袋井市/静岡市/静岡県/日本建築学会 東海支部 静岡支所/日本建築家協会 東海支部 静岡地域会/静岡県建築士会/静岡県建築士事務所協会/RPB (Regional Brand+Pride, 東日本地域向上研究会)/総合資格学院/日建学院 *仮、承認待ちを含む
[協力]百古里ファーム
※「静岡建築茶会」は浜松市文化芸術創造団体として認定されています。

<https://www.sist.ac.jp/architecture/teaparty/>

講座の概要

- 1 **大学連携講座の名称:**防災建築街区と中心市街地の持続可能性 第2回@富士
- 2 **主担当大学及び所属:**静岡理工科大学 理工学部 建築学科 脇坂圭一
- 3 **連携先大学及び所属:**静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 天内大樹・講師、常葉大学 造形学部 造形学科 土屋 和男・教授
- 4 **開催日時:**12月9日(土) 13時00分~16時30分
- 5 **開催場所:**富士・富士市交流センター(富士市交流プラザ内)
- 6 **参加者数:** 27人(一般 26人、大学生 1人)

7 事業の概要と成果(講師、要旨を含む):構成は第1回と同様に、前後半に分けて実施した。前半はレクチャー、後半はディスカッションである。講演者および題目は、遠藤薫氏(東京電機大学 未来科学部 建築学科 特任教授) | 再々開発と防災建築街区を考える、佐野荘一氏(富士山まちづくり株式会社 代表取締役)・勝亦優佑氏(勝亦丸山建築計画 代表取締役) | 複数の土地の建築資源を接続する、今川俊一氏(静岡市役所 企画課) | 街の“廊下”でありつづけるための建築帯、伊藤光造氏(NPO 法人くらしまち継承機構 理事長) | 防災建築帯、防災建築街区の共同ビルにおけるリノベーションと建築基準法適用の問題、であった。モデレーターは、脇坂圭一(静岡理工科大学)、天内大樹(静岡文化芸術大学)、土屋和男(常葉大学)が務めた。

前半、レクチャーに先立ち、脇坂より第1回以降の調査成果も含めて「防災建築街区の紹介」を行った。遠藤薫教授からは、小樽市と枚方市の再々開発の動向、容積の質を反映した土地の高度利用、メインストリートを形成・運営してきた防災建築街区の容積の質、スケールを再現する市街地再開発事業の提案について、佐野荘一氏・佐野荘一氏からは、富士・吉原地区で取り組んだイベントやコンバージョン事例の紹介、不動産データベースとして取り組んだ調査内容、建築家であり事業主としてビジネスに取り組む方法論について、今川俊一氏からは、静岡市呉服町に残るオリジナルの店舗の減少と全国資本テナントの増加、オーナーの意識、通行量の変遷と場所の関係、複数の建築モデルとその特徴、低層型の可能性について、伊藤光造氏からは、既存不適格と基準法3条1項三号の可能性、文化財保護法182号2項と基準法の適用除外、静岡県の基準法3条1項三号適合事例について、講演を頂いた。

ディスカッションでは、ゼネコンの本音、実際の事業性との齟齬、街の廊下としての静岡市・呉服町の可能性、ローコストにすることによる設計量低減のジレンマ、オーナーの知識の少なさ、制度設計とその結果としての空間の規程、「吉原スタイル」の可能性、地方におけるタワー型のリスクとそれを選択する行政の責任、文化財としての防災建築街区について、議論した。また、質疑として、地元出身の専門家から商店街が疲弊していることへの悲しみと行政の誘導の役割、地元民の愛着の少なさ、といった話題からさらに議論が展開した。

※詳細資料：広報チラシ兼当日プログラム、講座写真データ、記録集

講座写真データ 第2回@富士



開会挨拶をする土屋和男



防災ビルの紹介をする脇坂圭一



講演する遠藤薫教授



講演する佐野荘一氏・勝亦優佑氏



講演する今川俊一氏



講演する伊藤光造氏



ディスカッション風景

静岡建築茶会 2017

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム 平成29年度大学連携講座

Fuji

防災建築街区と中心市街地の持続可能性

県内各市における現代的な課題として一部を挙げるならば、①脆弱な公共交通と都市の郊外化+都心部の空洞化と商店街のシャッター街化、②限界集落の消滅可能性と環境の保全、③東海道沿いゆへの開発で滅失した多くの歴史遺産、④全国的に高水準の空き屋問題、⑤市街地に戦後多く建設された建築物の老朽化などがあります。

複雑に絡み合ったこれらの問題に、簡単に処方箋は見いだせませんが、個々の専門領域に閉じこもらず、産官学の関係者と一般の来場者も含めたラウンドテーブルを開催することで、問題のメカニズムを共有し、方法論を見いだしたいと思えます。

静岡県は東西に広い地理的要因、藩政期由来の歴史的要因などから、問題意識を県民として共有するのが難しいとも言われます。東海道沿いだから降ってきたヒト・カネ・モノにはもう頼れないかもしれません。

今回トピックに据えたのは「防災建築街区」、昭和30年代、延焼防止を目的に全国の市街地に建設された鉄筋コンクリート造の建物です。竣工から50年経ち、商業空間の上部に集合住宅やホテルを積層させた「下駄履き」に再開発するか、中低層建物を活かして現代版の職住近接の街並みへアップデートするか——皆さんとともに「自分ごと」として考えていきます。



12 / 9 / SAT 13:00-

LECTURER 遠藤薫 (東京電気大学) / 佐野荘一 (富士山まちづくり会社) + 勝亦優祐 (勝亦丸山建築計画) / 今川俊一 (静岡市) / 伊藤光造 (NPOくらしまち継承機構)

MODERATOR 脇坂圭一
天内大樹
土屋和男

VENUE 富士市交流センター
(富士市交流プラザ内)
富士市富士町 20番1号



タイムテーブル

13:00 挨拶・主旨説明	14:45 お茶会
13:05 防災建築街区の紹介	14:55 伊藤光造さん話題提供
13:15 遠藤薫さん講演	15:15 ディスカッション
13:45 佐野荘一さん・ 勝亦優祐さん講演	16:25 まとめ
14:15 今川俊一さん講演	16:30 終了、懇親会へ

参加お申し込み・お問い合わせ

各回定員
50名

定員は各回50名(先着順・無料)となっております。
3日前までに下記メールアドレスへお申し込みください。
その際、お名前・ご住所・ご所属・人数・懇親会(実費)への参加の有無をお知らせください。

teabreak.shizuoka@gmail.com

MODERATOR / ORGANIZER



脇坂圭一 1971年北海道生まれ。東北大学工学部建築学科卒業。建築設計事務所勤務。オフィス建築大学留学(デンマーク政府奨学金)。JDS architects、東北大学大学院博士課程修了。脇坂圭一アーキテクト設立(ヒュッゲ・デザイン・ラボに改組)、2011-16年名古屋大学施設計画推進室准教授。2016年静岡理工科大学教授。



天内大樹 1980年東京都生まれ。東京大学文学部卒業、同大学大学院人文社会系研究科博士課程退学。博士(文学)、美学芸術学/建築思想史。2008年日本学術振興会特別研究員、2011年東京大学教務補佐員、2012年東京理科大学P.D.研究員、2014年静岡文化芸術大学デザイン学部空間造形学科(現・デザイン学科)講師。



土屋和男 1968年東京生まれ。工学院大学建築学科卒業。芝浦工業大学大学院建設工学専攻、同地域環境システム専攻修了。博士(学術)。一級建築士。2002年より常葉学園大学造形学部講師、准教授。現在、常葉大学造形学部教授。専門は近代日本建築史。

PROJECT MEMBERS

杉山雅哉(静岡文化芸術大学 デザイン学科3年) / 平井彩希(静岡文化芸術大学 デザイン学科3年) / 山下由莉恵(静岡文化芸術大学 デザイン学科3年) / 安江朱音(静岡文化芸術大学 デザイン学科2年)

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム 平成29年度 大学連携講座

[主催] 静岡理工科大学・静岡文化芸術大学(連携)・常葉大学(連携)・静岡建築茶会
[後援] 浜松市・袋井市・静岡市・富士市・磐田市・沼津市・日本建築学会東海支部静岡支所・日本建築家協会東海支部静岡地域会・静岡建築士会・静岡県建築士事務所協会・RBP(Regional Brand+Pride, 東日本地域力向上研究会)・総合資格学院・日建学院 *仮、承認待ちを含む
[協力] 百古里ファーム

※「静岡建築茶会」は浜松市文化芸術創造団体として認定されています。

<https://www.sist.ac.jp/architecture/teaparty/>

LECTURER



遠藤 薫
東京電機大学未来科学部建築学科特任教授 / 岐阜県生まれ。東京大学大学院都市工学専攻修了後、住宅・都市整備公団(現UR 都市機構)。博士(工学)。2007年より東京大学大学院都市持続再生学コース(通称東大まちづくり大学院)特任教授。2014年より現職。都市計画(都市再開発、公民連携、都市再生)について調査・研究を行う。

LECTURER



勝亦 優祐
勝亦丸山建築計画 代表取締役 / 1987年富士市生。2012年工学院大学大学院工学研究科建築学専攻木下庸子研究室修了。2012年より日建設計、フリーランスとしても活動。2013年帰郷、2017年株式会社勝亦丸山建築計画設立。静岡県富士市、東京都北区を拠点に建築、インテリア、プロダクトのデザイン、都市リサーチ、地域資源を活かした事業投資等を行う。

LECTURER

今川 俊一

静岡市役所企画課 / 千葉県出身。2001年東京大学大学院都市工学専攻修士課程修了。(株)都市環境研究所に5年勤務。2006年静岡市役所。都市計画課、企画課で静岡、清水の中心市街地まちづくり(七間町映画館街跡地周辺再生、清水港ウォーターフロント開発等)に従事。



LECTURER

佐野 荘一
富士山まちづくり株式会社代表取締役 / 2003年地元有志とNPO法人東海道・吉原宿を設立。全国公募型シャッターアート、富士市立高校と協働運営の常設店吉商本舗などを手がける。富士市民活動センター指定管理、静岡県ふじのくにNPO活動センター運営受託。2013年商店街遊休不動産再生を目的に民間資本の富士山まちづくり株式会社を設立。

LECTURER



伊藤 光造
NPO法人くらしまち継承機構理事長 / 1948年静岡県生。早稲田大学大学院建設工学科修了。(株)地域まちづくりプランナー、プロデューサー、NPOとして歴史的建造物、街並の保存・活用、被災地支援など。前静岡県建築審査会会長、静岡県景観懇話会委員、静岡県富士山地域景観協議会アドバイザー、富士市景観審議会副会長。

